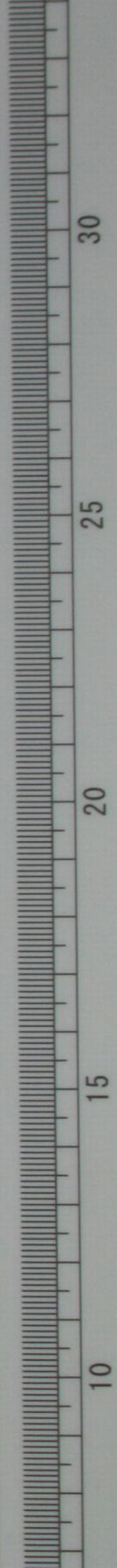


土岐文庫
文庫17
W217
4



文庫 17
W217
4

紅毛雜話卷之四

東都 森嶋中良 編輯

○疫癘の濫觴

西洋ありて瘧疾流行せし。濫觴は當時彼邦の
人南海沿はる時大いなる苦悩を蒙る。船中にて
陸地を登りし。行々九折之里を過る。其途人家の
ありし。ありて。州本より泉のり。時々
大風吹おし。臭穢鼻を撲らる。去りし。



昭和六十年二月一日 贈
生田善吉氏 寄

01018 5195355

地志に魚くもあつた。多きねへ鮑魚の傍に
鰐視まの。海ありてとて大魚の死して海に
ころあつてどわつらる。著く北海の
あつたれらる者。本國へ帰つて後大鰐と夜して
命河をく寸。まより此病歐羅巴洲中へ傳はる。是
收邦の瘧疫の傳へり。古よりありし。猶林帝を傳
つたれり。菴橋世のつたひなり。

○阿羅々仙人 附 天竺の類

黒坊蘇送の條より「トワアラ」の事「トワ」の考
あり。釈迦文仏法は傳へり。道士は阿羅々仙人と

のひ。又魏江名義集より阿羅漢を真人殊致阿羅婆
江大仙羅勒迦藍を阿羅々迦魔羅も注し。江
かて考ゆ。アラにハ神仙の「と」ひと移る。語
あり。半必せり。固より。釈迦如来八相物語の淨
版王の宮殿小類とあり。文に云。東に磨く文殿は
青龍城とあり。南に磨く宮殿はと云。龍華
あり。紅毛の地志に於て考ふ。龍華
音青龍あり。仏書に錫蘭を轉し云。なるん
靈鷲山の條あり。と云。伯爾齊亞は此の
寸あり。心希亞の隣國あり。

浸し〜河藏と。

○紅毛人の給金

精洲へ渡海して通高とる。紅毛人の給金とる。其
中あり〜船。船〜入。用紙の重浪や渡して其
解ハ世子ラ此の方お紙〜。世子ラ此ハ借解ありて只
是〜滞り〜滞帆のよめ〜。元利〜。渡とる。其
り〜病死とる。海中めて溺死とる。其子父の送歸
を結〜。業河〜。其時亡父の給金とる。河
流〜。其〜。其〜の給

○レーウー

昂獅子の壘候あり。亞弗利加洲〜。百黙の
王〜。其性〜。極
あり。教あり〜。追を〜。人〜。却て行
半速あり。勢の〜。車れ音河とる。同〜。遊れ
隠〜。母黙〜。一回〜。瘡河〜。病時〜。けりねて。
人〜。制〜。半あり〜。時〜。球河〜。擲あり〜。れを。
此〜。息〜。人を損あり〜。半河〜。忘〜。あり。

○紅毛の画法 洞板の法

紅毛の画〜。や〜。り。盡せり。凡〜。道河〜。者。物あり
男女〜。精〜。〜。夫〜。赤探の人物〜。出あり

獅子之圖

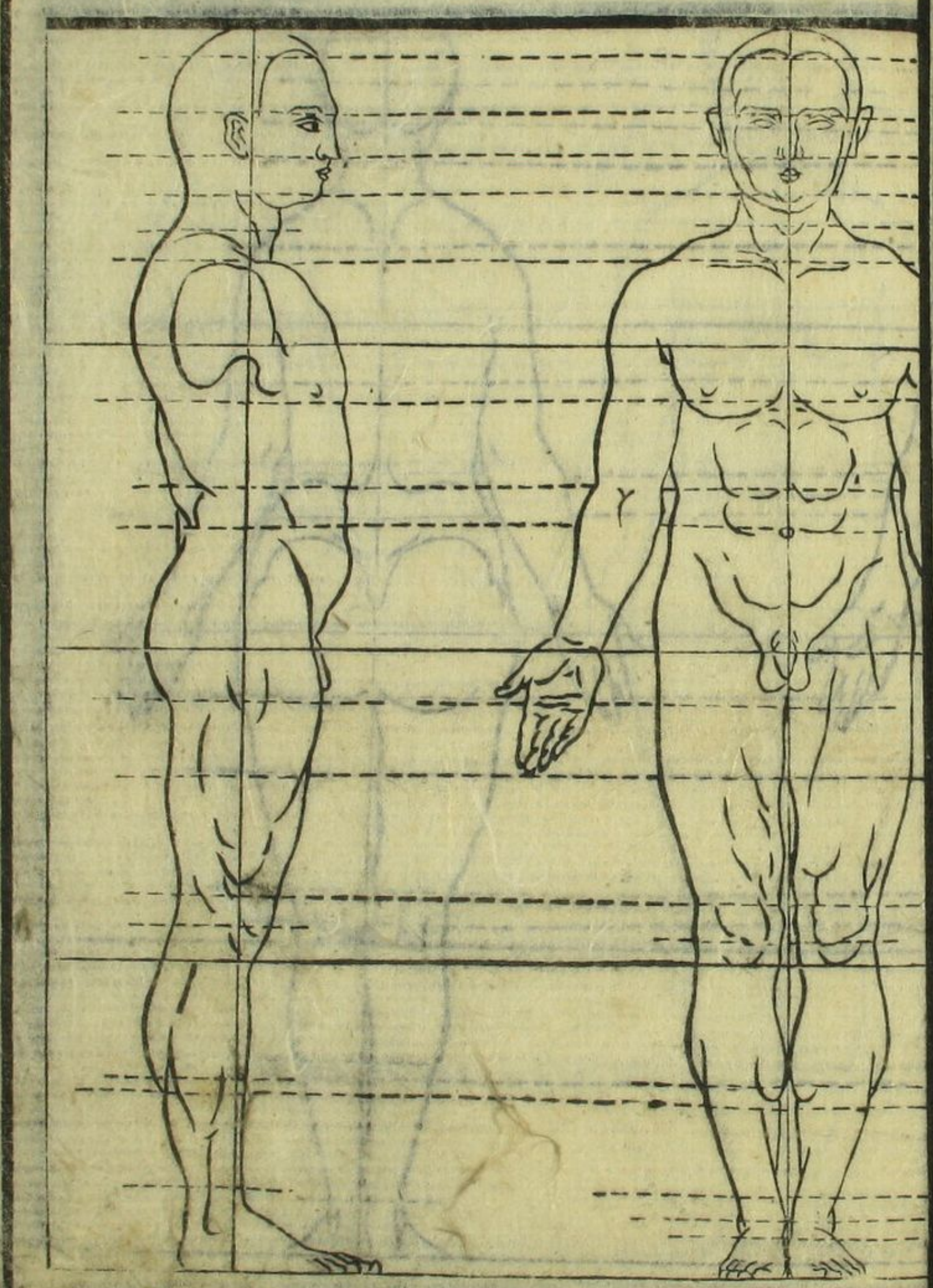
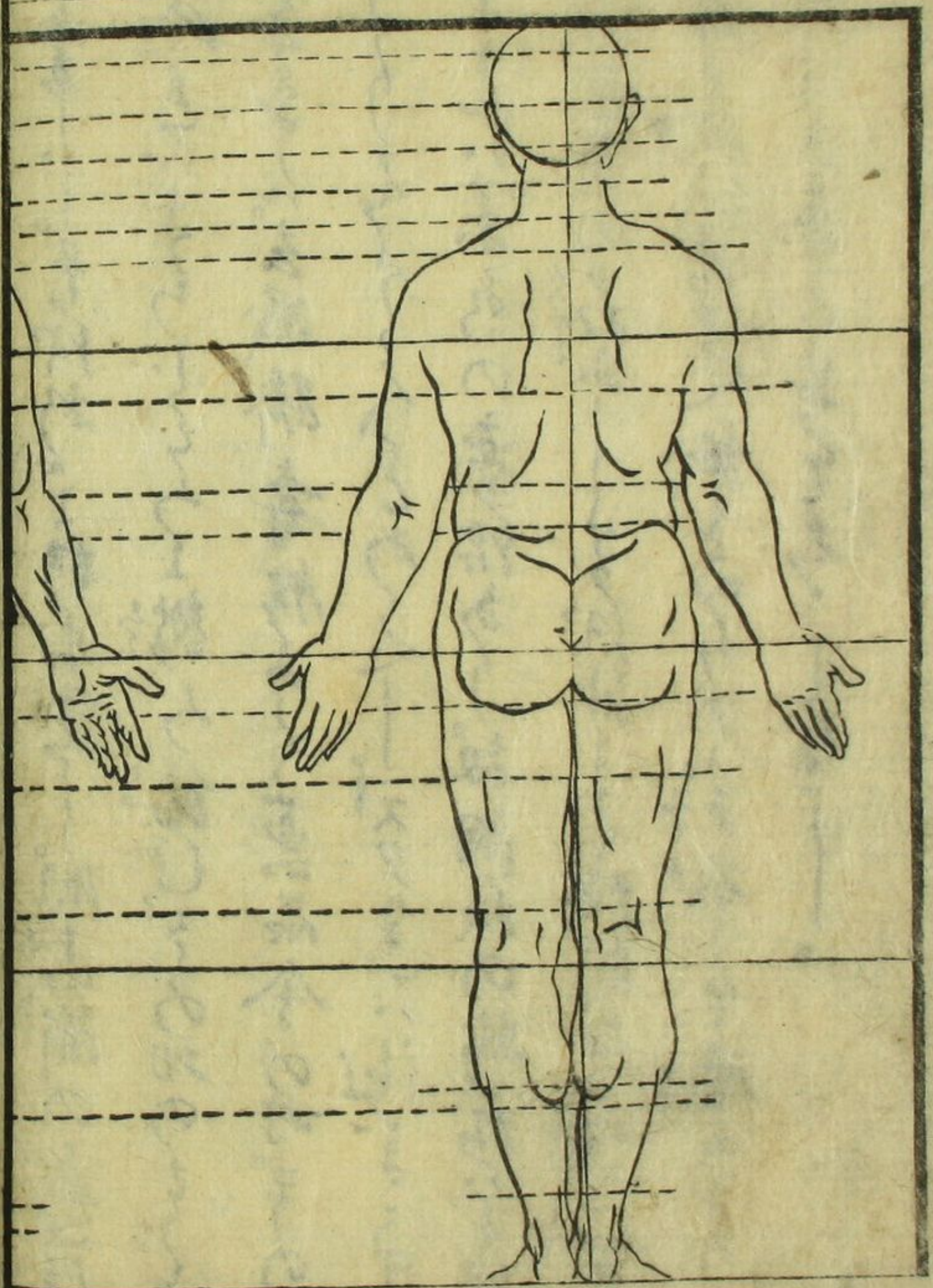


江
色
雜
古

雜
古

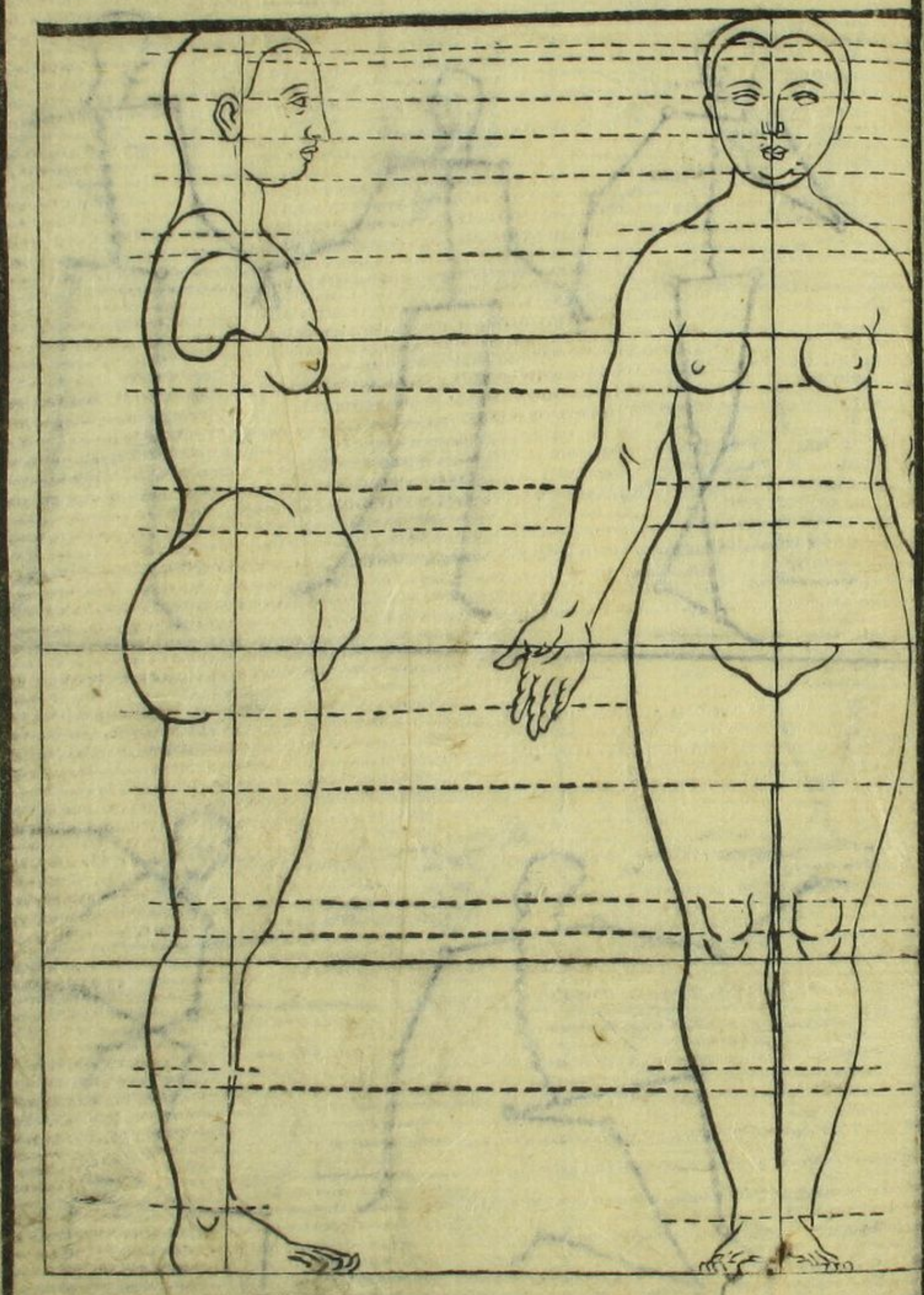
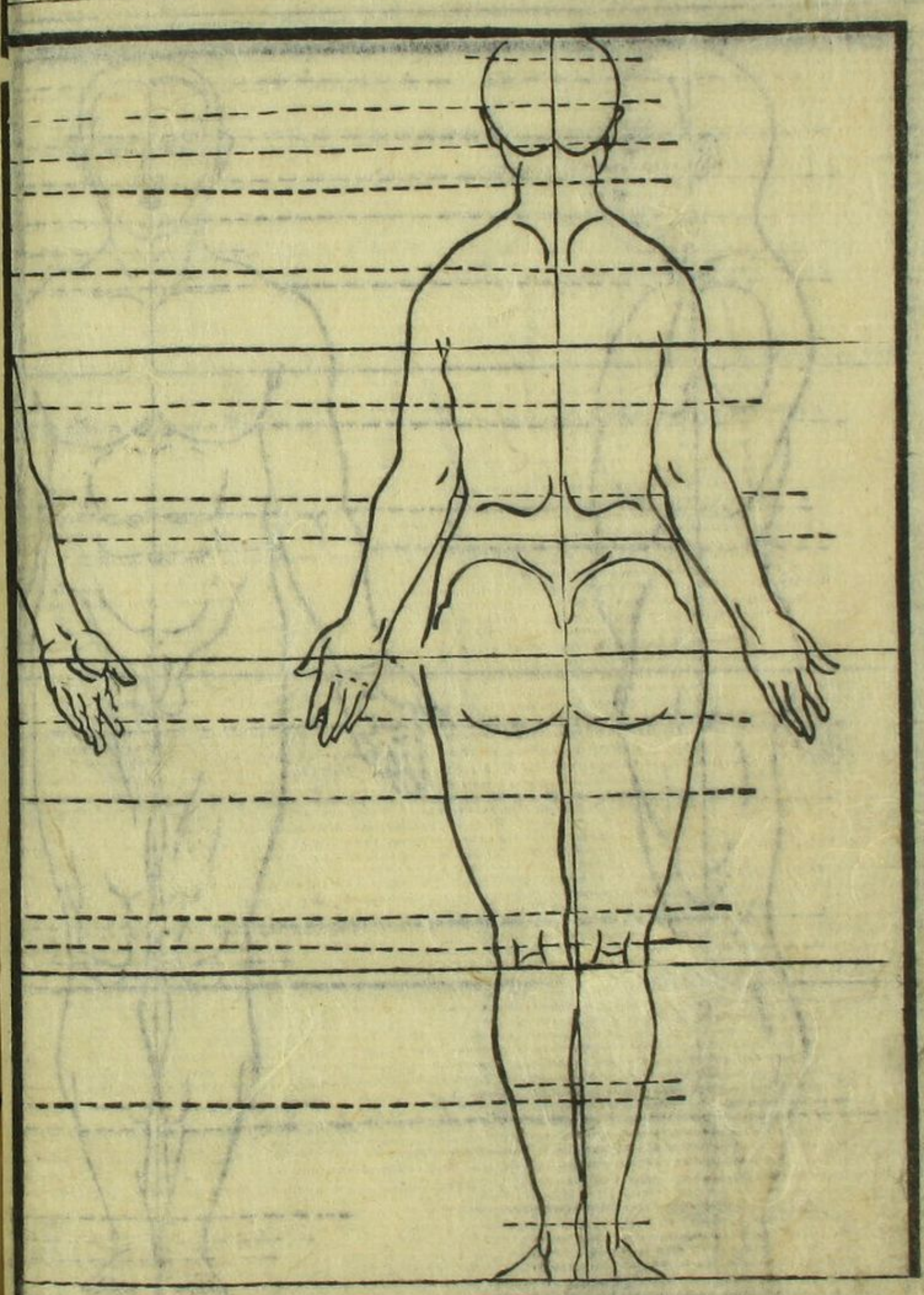
男子身體之圖

筆のふくくあつりしる西に教有り
細さ不い日あことん好に
下啓回ト



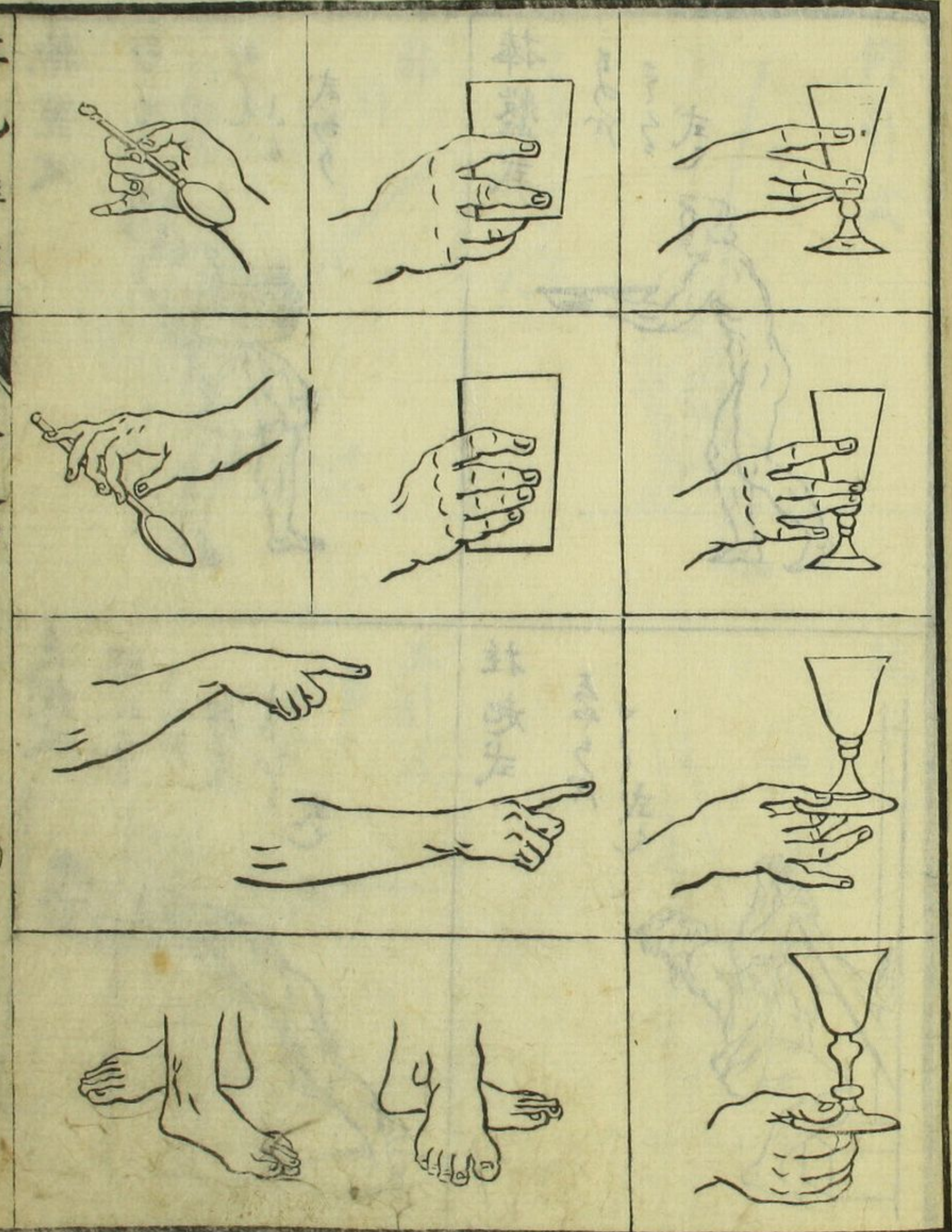
万象亭主人写之

婦人
身
體
之
圖



工
心
雜
言
卷
之
四

式之の足り手

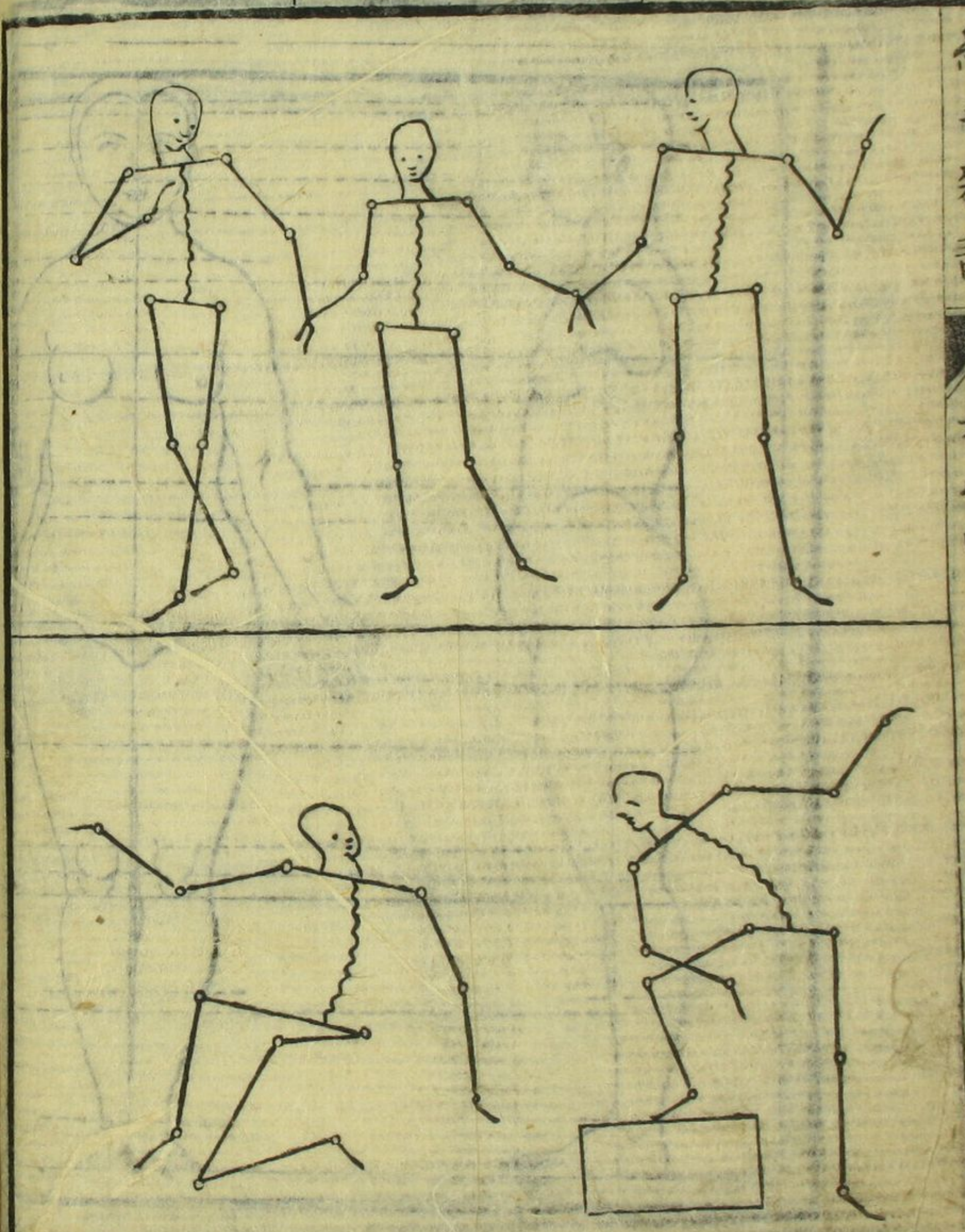


正毛雜言

卷之四

四

式之の節ら骨



正毛雜言

卷之四

四

式之の動る活る物る人る

抱重式

あり
の
かえ
し
式あり



捧盤式

りの
さ
式



支倒式

倒れ
の
押え
し
式



柱起式

さ
し
式



仰引式

と
引
式



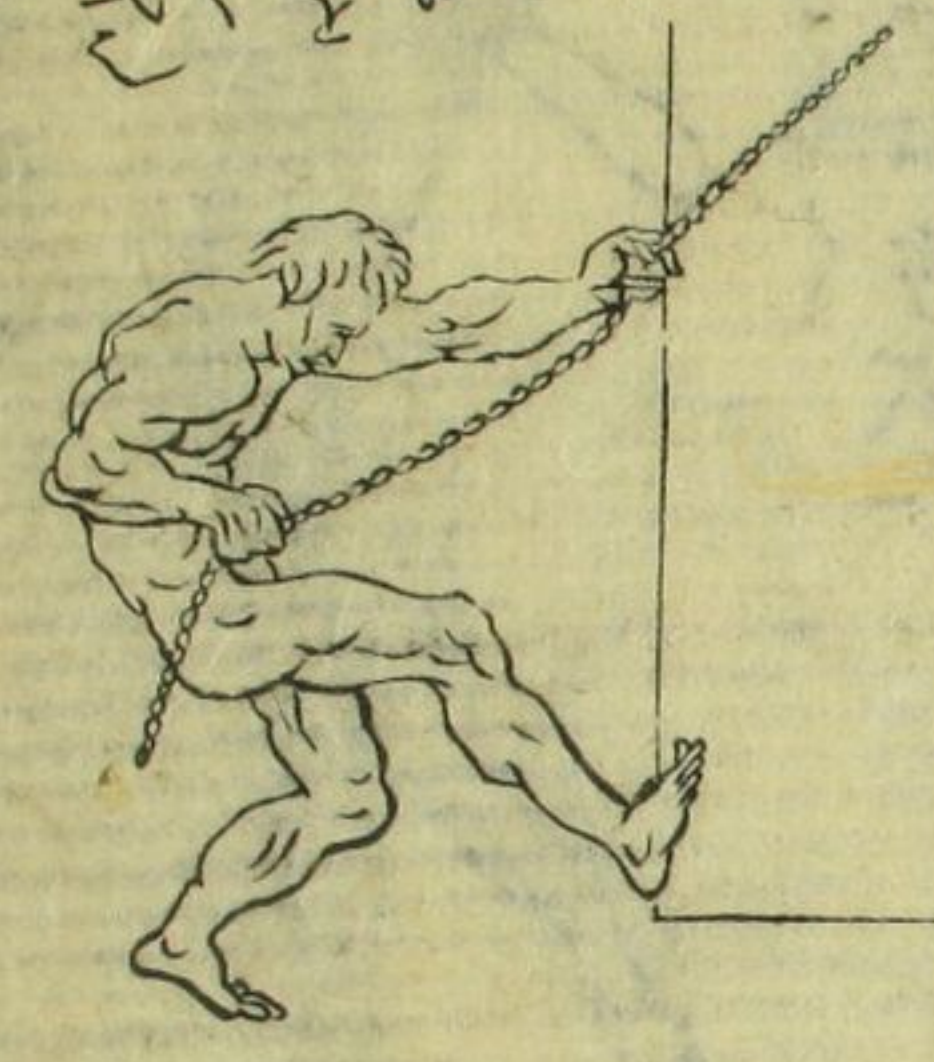
拔桌式

め
式



邪引式

ひ
の
式



正引式

あ
の
式



双手并物式



依のみく
のゆき式

斤手打物式



同斤の
式

施乞番

僧



乞兒

贈環圖



與壁圖



高門客嫖



嫖客

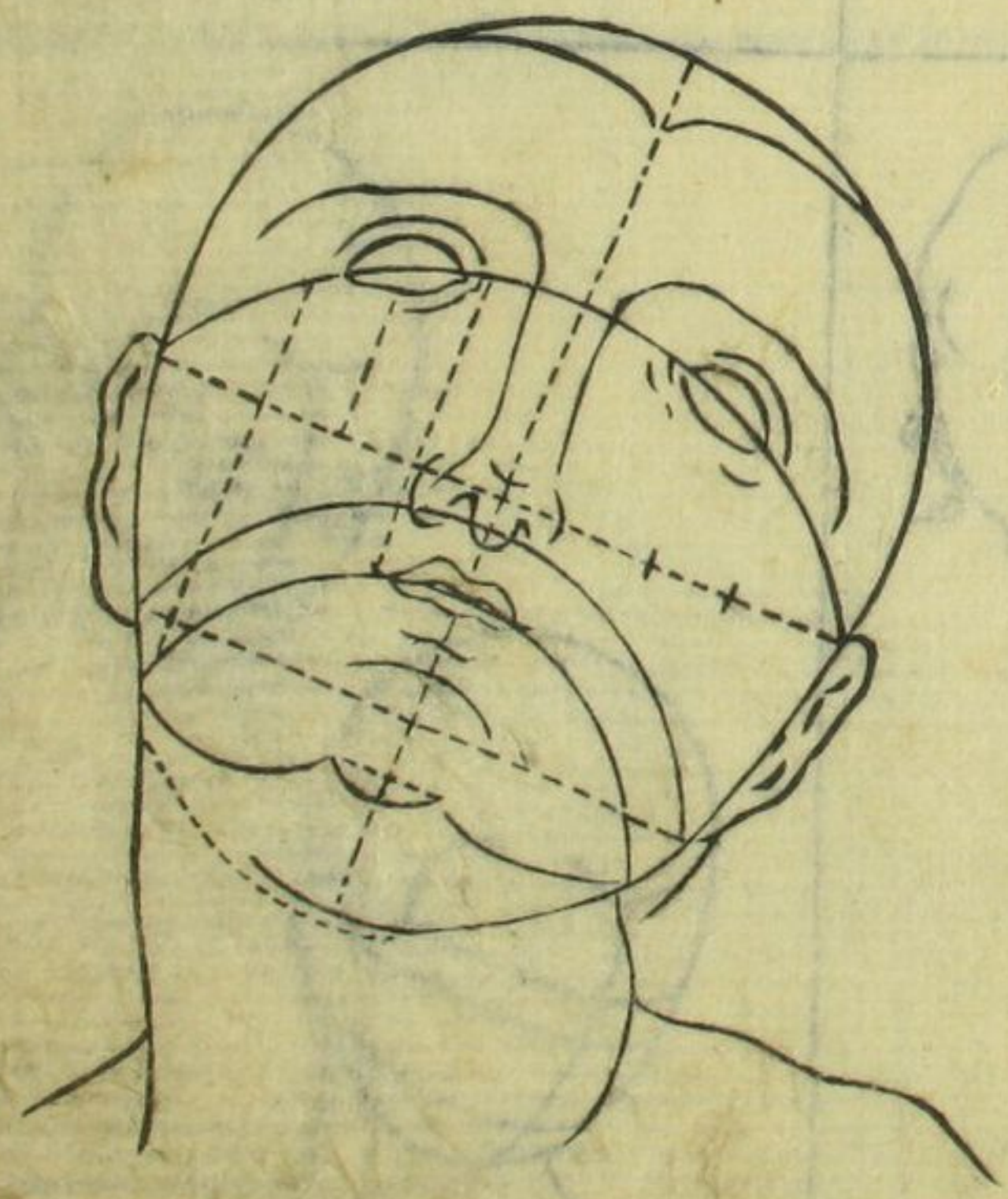
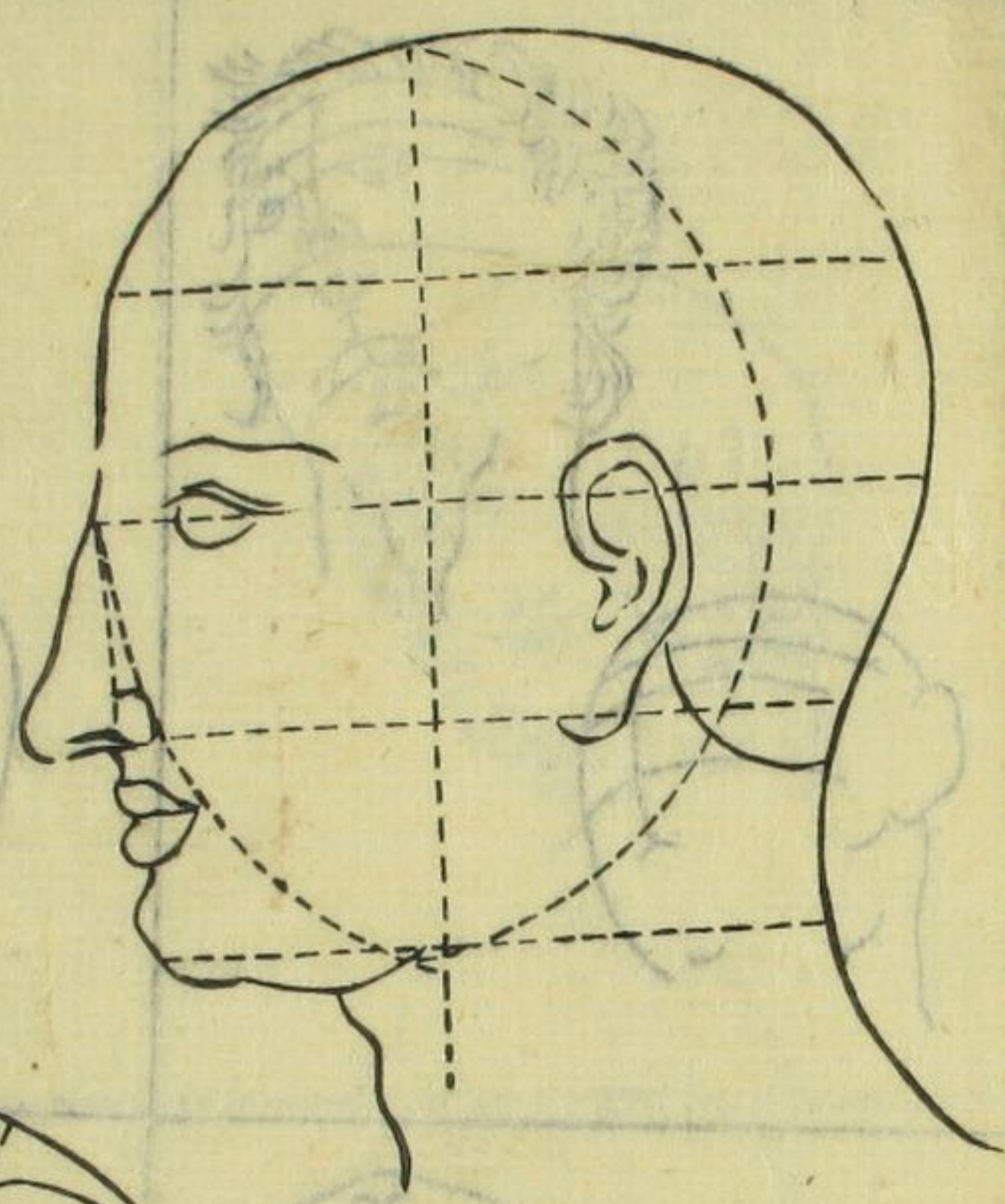
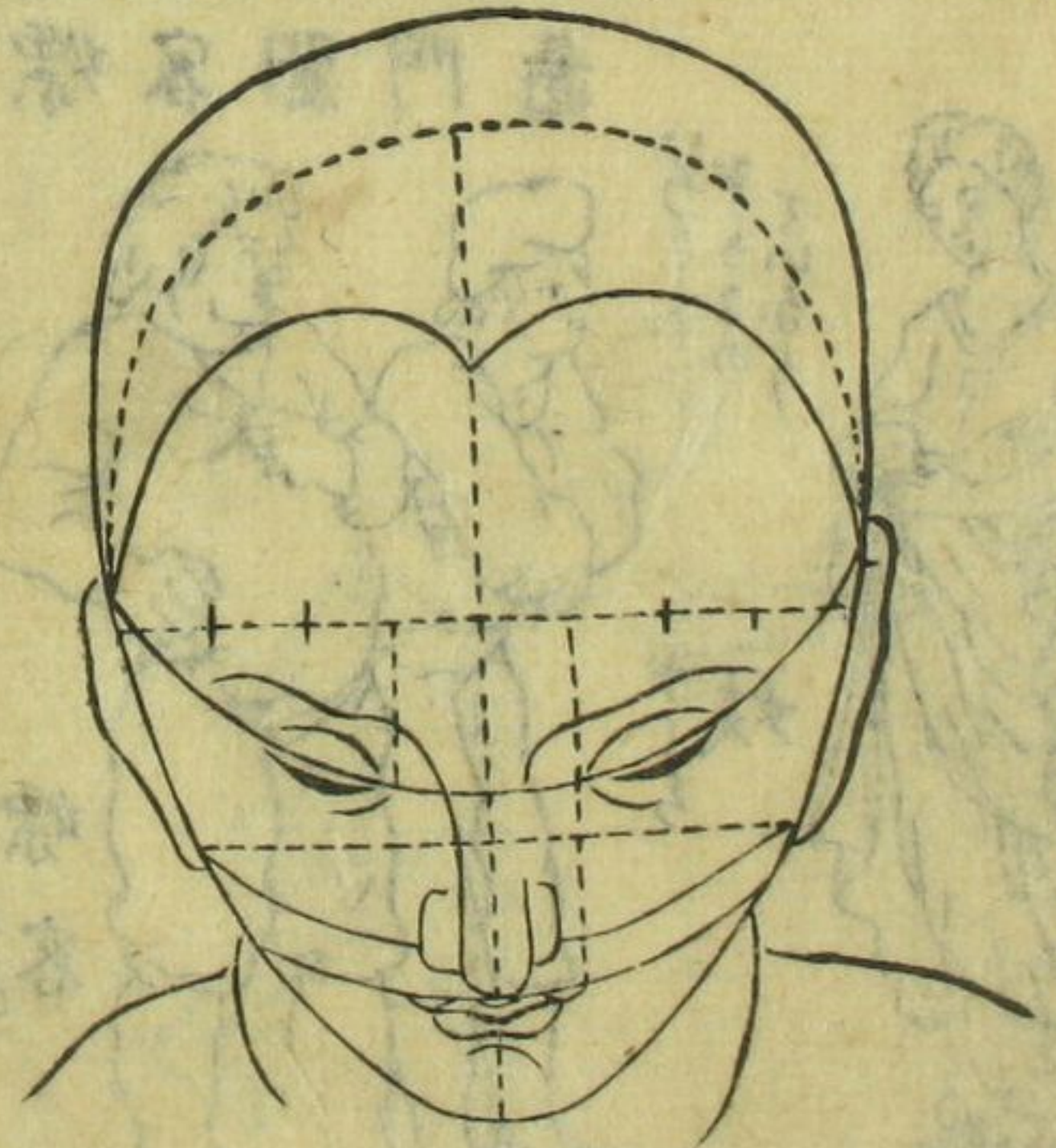
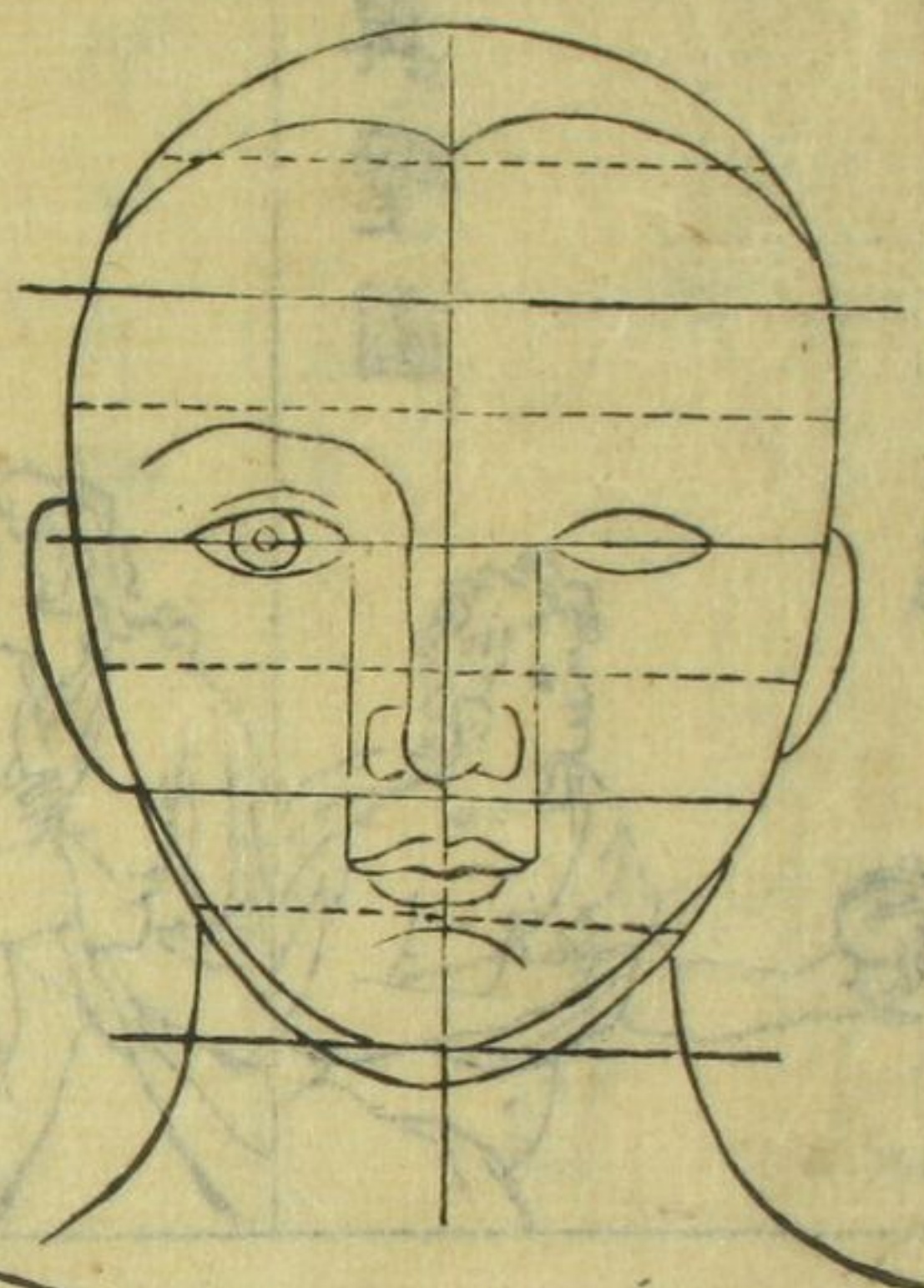
妓

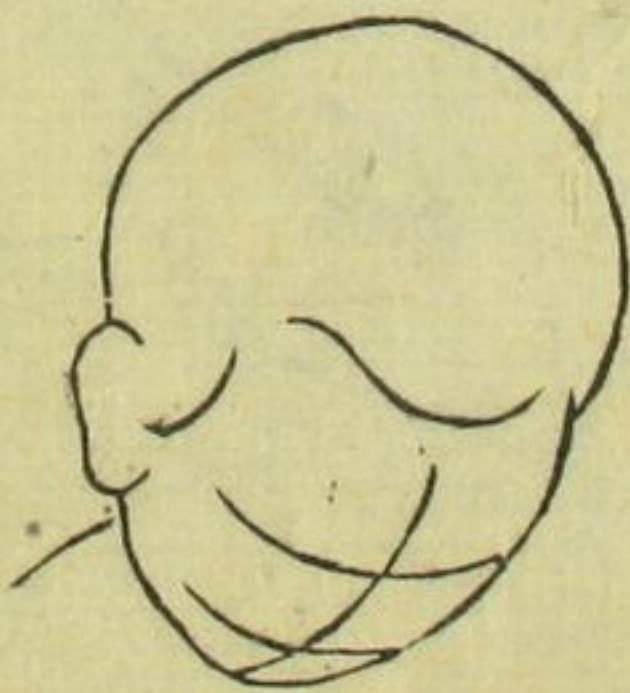
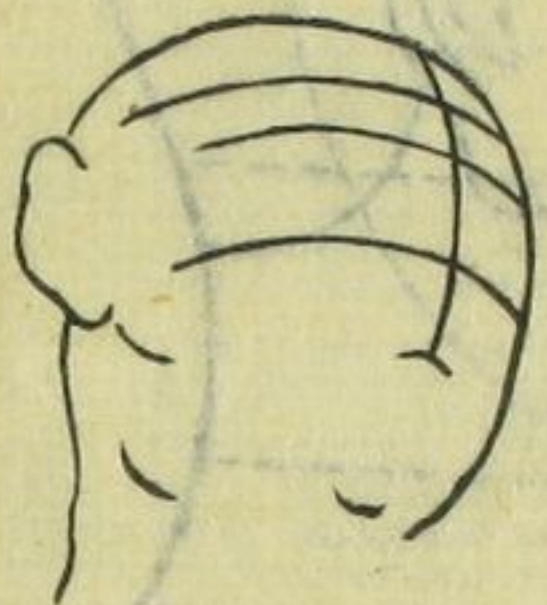
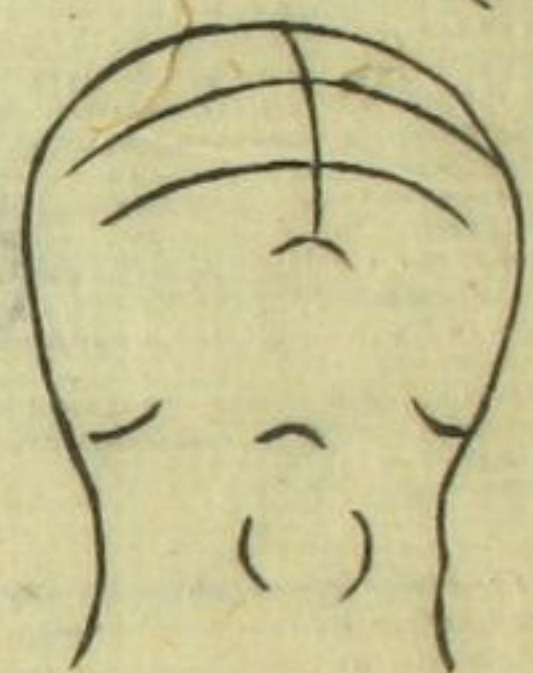
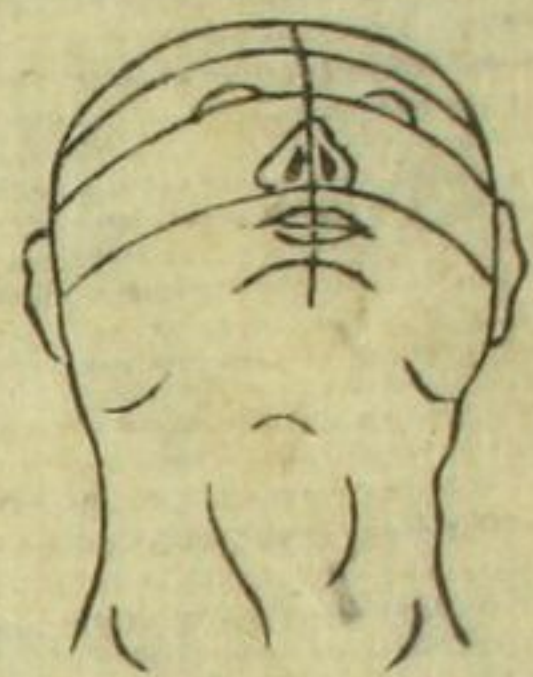
老鴿

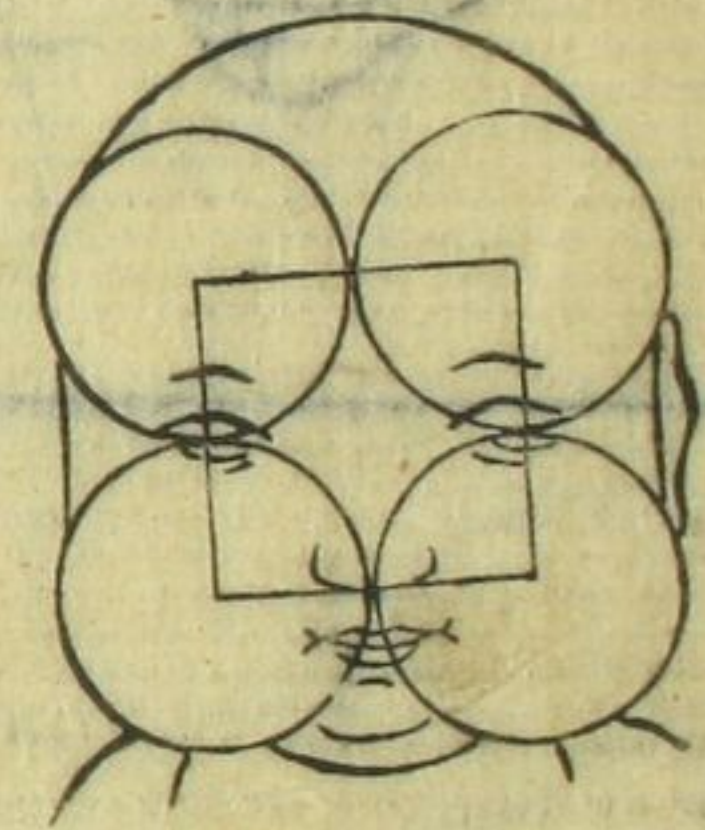
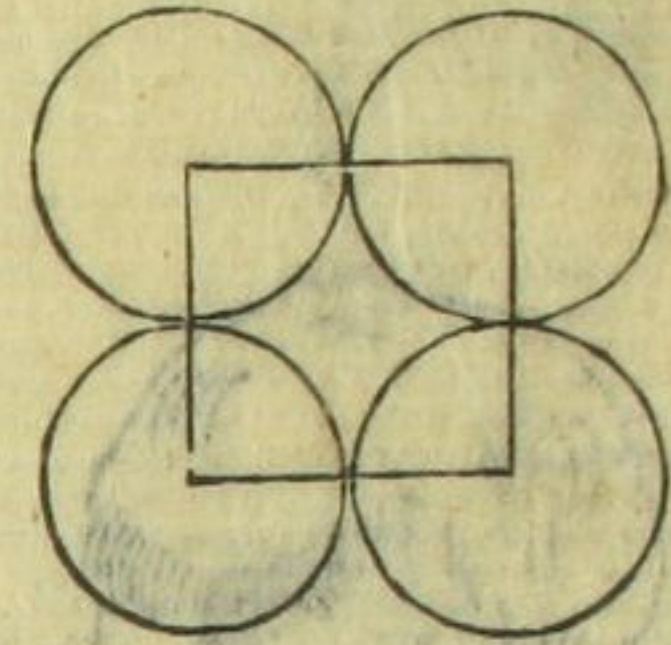
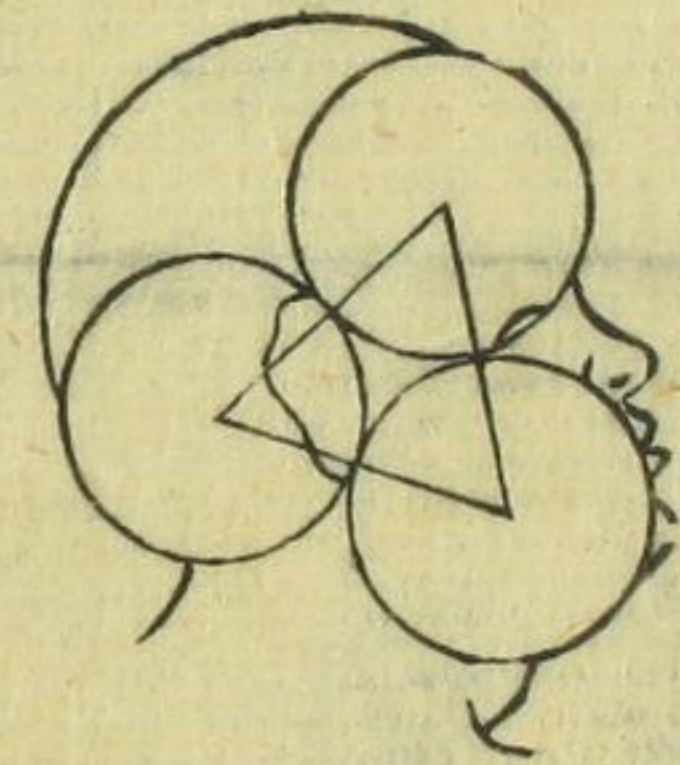
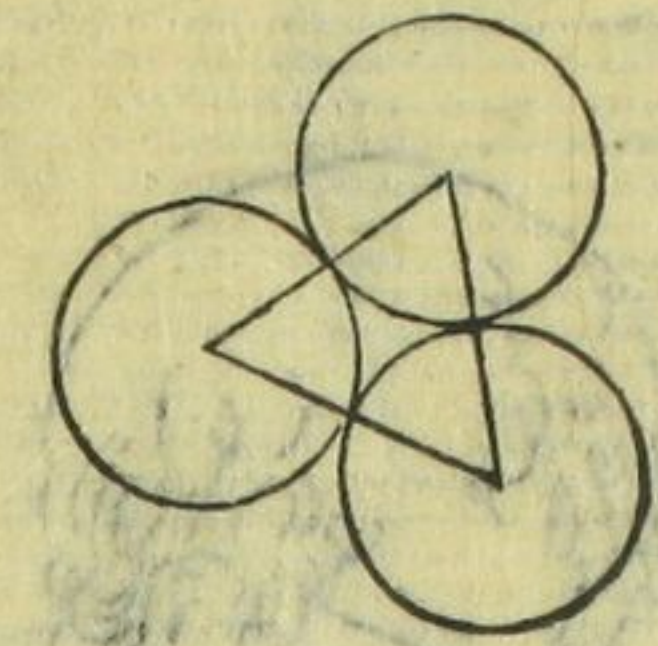
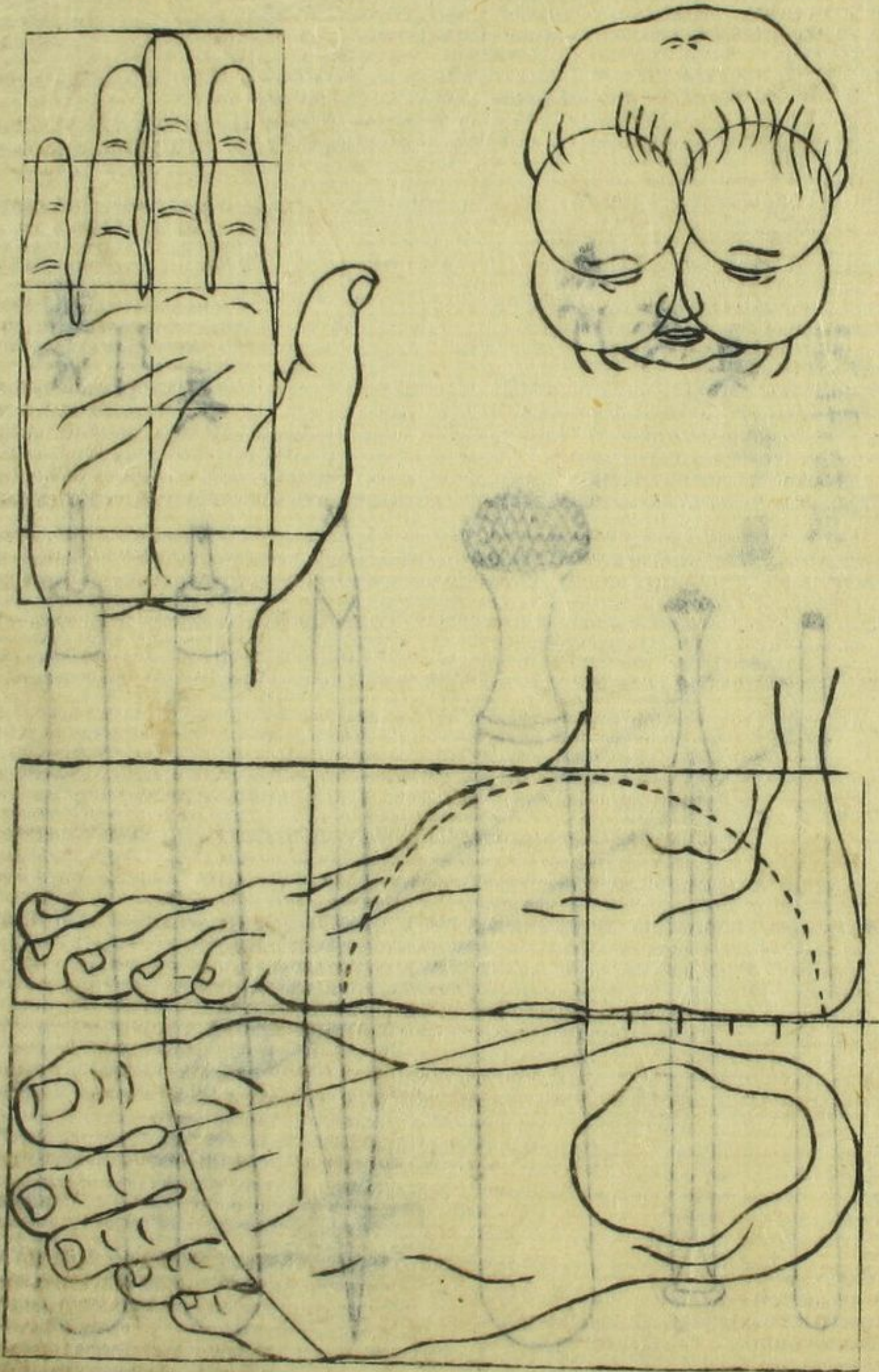


同異本之式

是ハヨシハズ 短クテ
割リテ法アリ

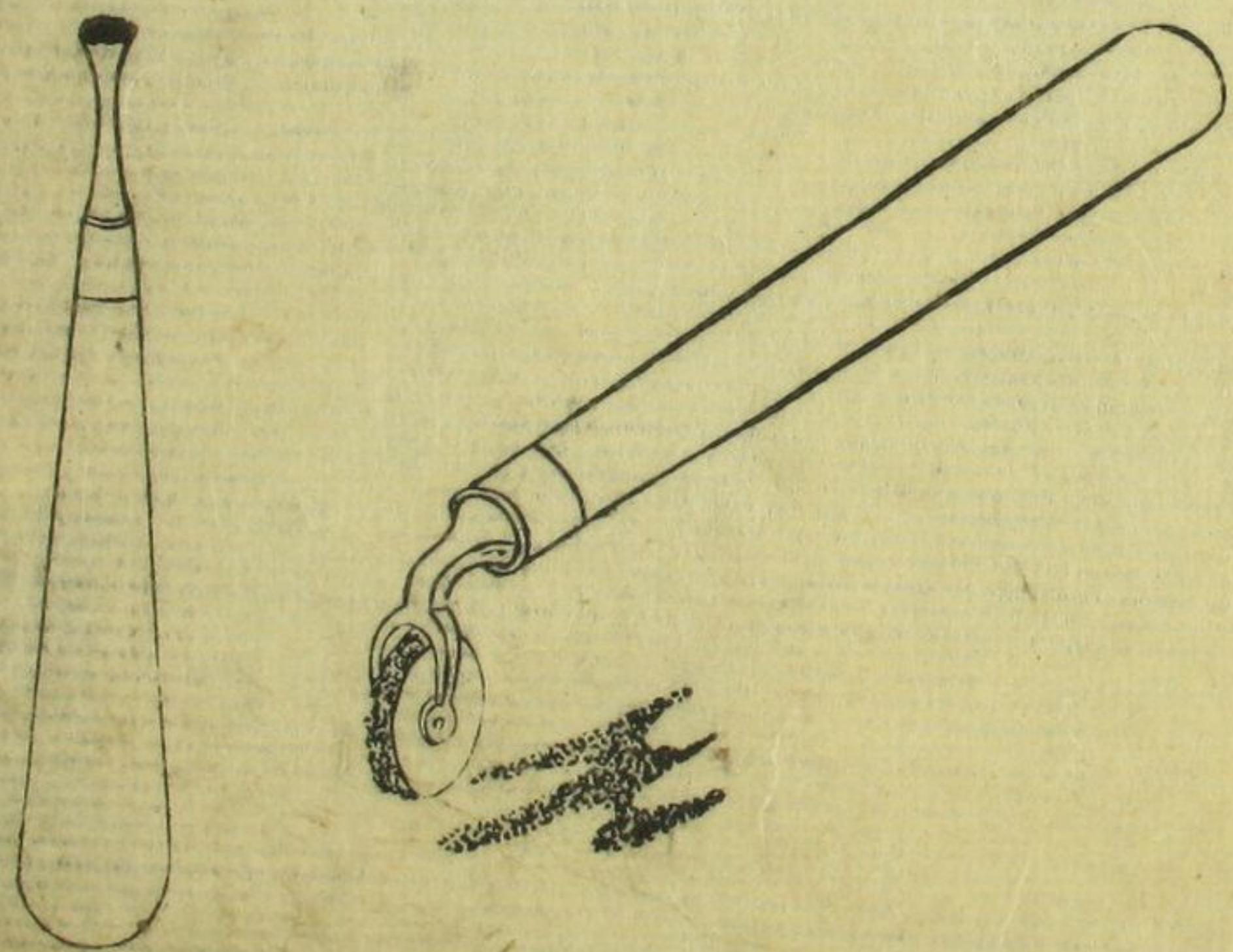






五七 雜古

芥子目
歩具

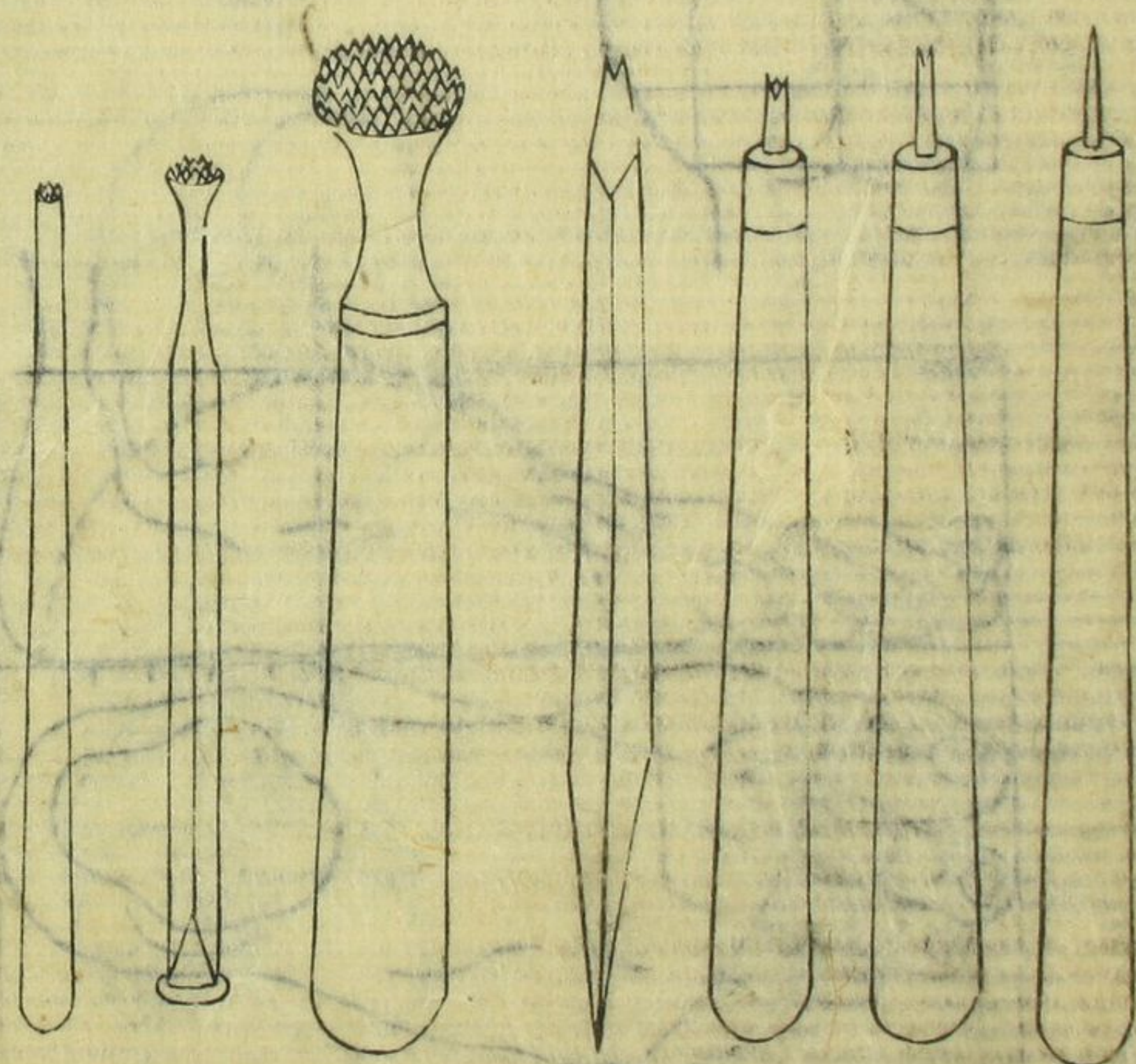


鏤板之具

「旨く此れ載る所の品式あり」

点河
突
具

筋
具



紅毛雜話卷之四

紅毛雜話
卷之四



